

標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット入力・作成マニュアル

1. はじめに

本書は、国土交通省海事局が策定した「標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット」(以下、標準フォーマット)を事業者が簡易的な作成ツール(以下、本ツール)を用いて作成するにあたり、作成ツールの使い方を説明するものです。

2. 目次

1. はじめに	1
2. 目次	1
3. 概要	2
3-1. 簡易的な作成ツールについて	2
3-2. 動作環境	2
3-3. Excelファイル凡例	2
4. 作成に必要なもの	3
5. 作成の手順	3
6. 事業者情報.xlsxの入力	4
7. 基本航路データ.xlsxの入力	6
7-1. シート「①航路」	6
7-2. シート「②のりば」	7
7-3. 座標の取得方法	9
7-4. シート「③船の紹介」	10
7-5. シート「④運航日」	11
7-6. シート「⑤ダイヤ」	12
7-7. シート「⑥旅客運賃」	13
7-8. シート「⑦車両・特殊手荷物」	14
8. 標準フォーマットの出力方法	15
9. データのメンテナンスについて	17

3. 概要

3-1. 簡易的な作成ツールについて

簡易的な作成ツールは以下から構成されます。

- 航路データ(各航路情報のファイルを収めるフォルダ)
 - 基本航路データ.xlsx(航路情報を入力するファイル)
- 標準フォーマット.exe(作成ツール本体)
- 実行.bat(作成ツールを実行するファイル)
- DATE.DLL(祝日の判定をするプログラム)
- 事業者情報.xlsx(事業者の基本情報を入力するファイル)

基本航路データ.xlsxをコピーして作った航路の情報を入力するExcelファイルと、事業者情報のExcelファイルで各項目を入力し、作成ツール本体で標準フォーマットを作成します。

3-2. 動作環境

本ツールは、以下の条件を満たしたコンピュータが1台必要です。

- Microsoft Windows がインストールされていること
- インターネットに接続可能なこと
 - 法人番号公表サイトへの接続
 - 港の座標を取得するのに電子国土Web(国土地理院)への接続に用います
- Microsoft Office Excel 2010以降 がインストールされていること

3-3. Excelファイル凡例

Excelのファイルの各項目についている色は次の意味になります。

	標準フォーマットで必ず入力が必要な項目です。この項目に入力がない場合、標準フォーマットに作成時にエラーが出ます
	標準フォーマットで必ずしも入力が必要ではない項目です
	標準フォーマットに対応項目がなく、入力が不要な項目です

4. 作成に必要なもの

本ツールを用いて標準フォーマットを作成するには、以下の情報が分かるものが必要です。

- 法人番号
- 航路の情報が分かるもの
 - 寄港地
 - ダイヤ
 - 運航日
 - 船体の情報
 - 運賃
 - 車両、特殊手荷物の情報

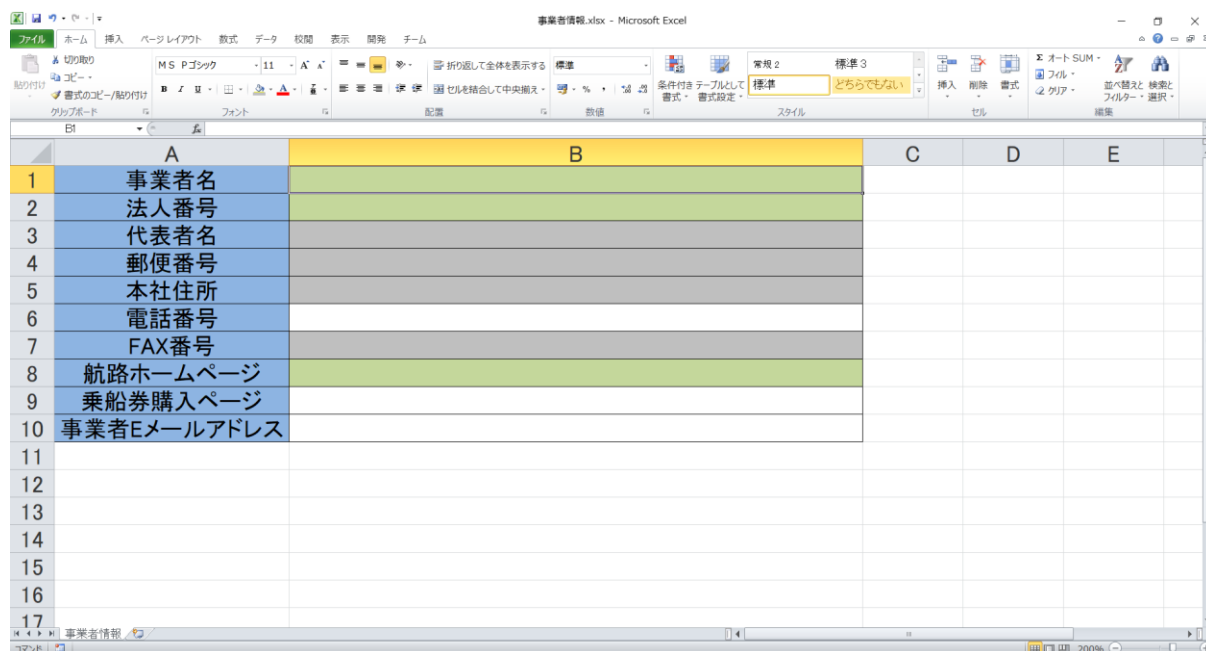
5. 作成の手順

本ツールは以下の手順で作業し、標準フォーマットを作成します。

1. 事業者情報.xlsxの入力
2. 基本航路データ.xlsxを作成する航路数分作成する
 - a. 基本航路データは、①～⑦のシートがありますので、この番号順に項目を入力してください
3. 航路数分、航路情報を入力し終わったら、作成に必要な設定ファイルを編集します
4. 最後に実行.batをダブルクリックすると標準フォーマットが作成されます
5. もし作成時にエラーが出た場合は、エラーの内容にしたがい1.か2.の手順に戻り、修正をしてください

次の章から具体的に項目の入力の仕方について説明します。

6. 事業者情報.xlsxの入力



1. 事業者名

- a. **一般旅客に案内している名称**を入れます。
 - i. 法人名と一致する場合: 法人名を入力します。株式会社等の法人格の入力はあってもなくても構いません
 1. 例: 佐渡汽船株式会社⇒「佐渡汽船」または「佐渡汽船株式会社」を入力
 - ii. ブランド名や通称、愛称等旅客に案内したい名称がある場合: その名称を入力します
 1. 例: オーシャントランス株式会社⇒「オーシャン東九フェリー」のブランド名を入力します
- b. 実際に事業を運営する主体と、船を運航させる事業者が別の場合、事業を運営する**主体となっている事業者の名称**を入れます。事業者情報の以降の項目も同様です
- c. この項目は標準フォーマットのagency.txtのagency_nameに適用されます

2. 法人番号

- a. 事業者の法人番号13桁を入れます
- b. 法人番号は、下記Webサイトで調べることが可能です。その他法人番号が分かる書類等があれば、そちらを参照します
- c. <https://www.houjin-bangou.nta.go.jp/>
- d. 法人番号を選んでコピーし、法人番号の入力欄をダブルクリックして、法人番号を張り付けてください
- e. 自治体が事業を行っている場合、自治体の法人番号を入れてください
- f. この項目は標準フォーマットのagency.txtのagency_idに適用されます

3. 代表者名
 - a. 代表取締役の氏名、自治体であれば航行を担当する部課長の氏名、漁協等であれば組合長、理事長等の氏名を入力します
4. 郵便番号
 - a. 事業者の本社所在地の郵便番号を入れます。ハイフンは入れなくても問題ありません。自動的にハイフンが入力されます
 - b. 自治体の場合、航行を担当する部課がある庁舎の郵便番号を入れます
 - c. 漁協等の場合、事務所の郵便番号を入れます
5. 本社住所
 - a. 事業者の本社所在地の住所を入れます
 - b. 自治体の場合、航行を担当する部課がある庁舎の住所を入れます
 - c. 漁協等の場合、事務所の郵便番号を入れます
6. 電話番号
 - a. 運航についての問い合わせ先となる電話番号を入れます。電話番号は、ハイフンをつけて入れても、つけなくてもどちらでも問題ありません。電話番号のハイフンは補完されませんが、問題ありません
 - b. 運航についての問い合わせを受ける専門の番号がない場合は、事業者の代表電話番号を入れます
 - c. この項目は標準フォーマットのagency.txtのagency_phoneに適用されます
7. FAX番号
 - a. 運航についての問い合わせ先となるFAX番号を入れます
 - b. 運航についての問い合わせを受ける専用の番号がない場合は、事業者の代表FAX番号を入れます
8. 航路ホームページ
 - a. 航路の時刻や乗り場等、航路についての情報を案内しているホームページのURLを入れます
 - b. **会社案内をするコーポレートサイトのURLではありません**のでご注意ください
 - i. 例: 東九フェリー
 - ii. 正しい: <http://www.otf.jp/> (航路の案内をしているホームページ)
 - iii. 間違い: <http://www.ocean-trans.co.jp/> (コーポレートサイト)
 - c. 事業者で航路を案内するホームページを持っておらず、観光案内所等のホームページで案内されている場合、観光案内書の航路について説明しているページのURLを入れてください
 - d. この項目は標準フォーマットのagency.txtのagency_urlに適用されます
9. 乗船券購入ページ
 - a. インターネットから乗船券を予約・販売ができる場合、予約・販売ページのURLを入れてください
 - b. インターネットでの販売をしていない場合は入力不要です
 - c. この項目は標準フォーマットのagency.txtのagency_fare_urlに適用されます

10. 事業者Eメールアドレス

- 運航についての問い合わせ先となるEメールアドレスを入れます
- 運航についての問い合わせを受ける専用のEメールアドレスがない場合は、事業者の問い合わせ全般を受けるEメールアドレスを入れます
- Eメールアドレスでの問い合わせを希望しない場合、または問い合わせ先のEメールアドレスがない場合は、入力不要です
- この項目は標準フォーマットのagency.txtのagency_emailに適用されます

7. 基本航路データ.xlsxの入力

基本航路データは、航路単位でファイルを分けて作成します。

- 「航路データ」フォルダを開き、「基本航路データ.xlsx」を右クリックし、「コピー(C)」を選択
- キーボードの「Ctrl」キーを押しながら、「V」のキーを押下します
- 「基本航路データ - コピー.xlsx」ができます
- 「基本航路データ - コピー.xlsx」を右クリックし、「名前の変更(M)」を押し、分かりやすい名前を入力します。例)航路と改正日の組み合わせ(大洗～苫小牧_2019年改正)など
- 1～4の作業を作成する航路数分繰り返します
- 基になった「基本航路データ.xlsx」は別のフォルダに移動するか、削除してください。残ったまま標準フォーマット作成をすると不備を起こすことがあります。
- 以下、ファイルごとにシートの番号①～⑦の順番に項目を入力してください

7-1.シート「①航路」

	A	B	C
1	種別	航路距離	航路URL
2	フェリー		
3	航路名	所要時間	航路色
4			
5			
6			

- 種別
 - 航路に適合する運航種別をリストから選択してください。標準フォーマットに直接的に反映される項目ではないため、厳密に適合している必要はありません
- 距離
 - 航路の総距離を入力してください。小数点1桁のkm単位で入力してください
- 航路URL
 - この航路に関する情報が掲載された公式のホームページのURLを入力してください
 - この項目は標準フォーマットのroutes.txtのroute_urlに適用されます

4. 航路名

- この航路の運航ルートが一目でわかりやすい航路名を入力してください
- この項目は標準フォーマットのroutes.txtのroute_long_nameに適用されます
- 例) 発港名～経由港名～着港名
- 発～経由～着の名称より一般的に浸透している呼称があればそちらを入力してください
- 例) 宮島航路

5. 所要時間

- この航路の総平均所要時間を入力してください。分単位または時間-分単位で入力します
- 例1) 40分、例2) 1時間50分

6. 航路色

- この航路のイメージとなる色をリストから選択してください
- あるいは航路のイメージ色を規格として定めている場合、イメージ色のHTMLカラーコード(RGBコード)を#を付けず入力してください
- 例) 00ff00
- この項目は標準フォーマットのroutes.txtのroute_colorに適用されます。route_text_colorはここで選択/入力した色から自動的に割り当てられます
- 入力しない場合は白となります

7-2.シート「②のりば」

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	のりば							
2	港名	港よみ	乗り場	港緯度	港経度	港URL	英語名	繁体字名
3								
4								
5								
6								
7								

1. 港名

- この港の名称を入力してください
- なお**港は停泊順に入力**してください。この入力順が⑤ダイヤの停泊順に適用されます。
- なおこの作成ツールでは1つの航路では10か所の港までしか入力できません
- 港間を循環して運航するなど、1便で同じ港に複数回寄港する場合、寄港する回数分港の定義を作成してください(よみ、乗り場、緯度経度等、記載内容はすべて同一で構いません)

- e. 例) 宇和島新港～大島港～宇和島新港と循環する航路の場合、宇和島新港(1回目)・大島港・宇和島新港(2回目)の順で定義します

	A	B	C
1			
2	港名	港よみ	乗り場
3	宇和島新港	うわじましんこう	
4	大島港	おおしまこう	
5	宇和島新港	うわじましんこう	
6			
7			

- f. この項目は標準フォーマットのstops.txtのstop_idとstop_name、translations.txtのjaに適用されます

2. 港よみ

- この港の読み方をひらがなで入力してください
- この項目は標準フォーマットのtranslations.txtにjr-HrKtに適用されます

3. 乗り場

- 旅客船と高速船で乗り場が異なる、便によって乗り場が異なるなどの場合、この港の乗り場の名称を入力してください
- 乗り場が異なることがなく、乗り場の設定の必要がない場合は空白としてください
- この項目は標準フォーマットのstops.txtのstop_descに適用されます

4. 港緯度

- 後述の座標の取得方法を参考にして乗り場の緯度を入力してください
- 例) 37.92976
- この項目は標準フォーマットのstops.txtのstop_latに適用されます

5. 港経度

- 後述の座標の取得方法を参考にして乗り場の経度を入力してください
- 例) 139.0622
- この項目は標準フォーマットのstops.txtのstop_lonに適用されます

6. 港URL

- 港に関する情報が掲載されたホームページのURLがあれば入力してください
- この項目は標準フォーマットのstops.txtのstop_urlに適用されます

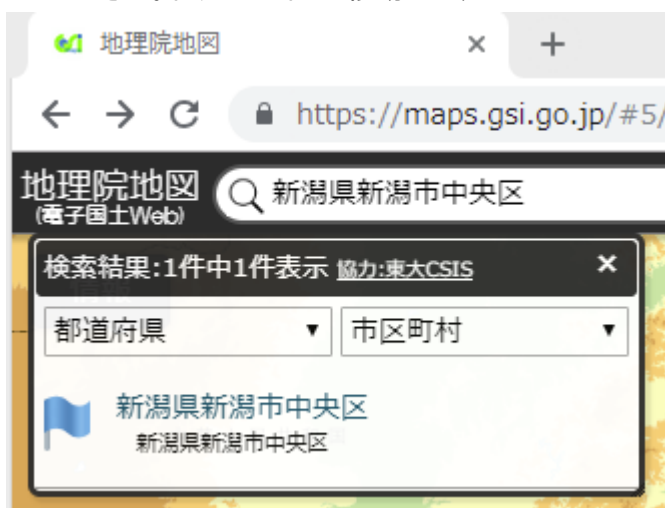
7. 英語名

- 港名の英語の表記があれば入力してください
- この項目は標準フォーマットのtranslations.txtのenに適用されます

8. 繁体字名
 - a. 港名の中国語(繁体字)の表記があれば入力してください
 - b. この項目は標準フォーマットのtranslations.txtのzh-Hantに適用されます。簡体字名
 - c. 港名の中国語(簡体字)の表記があれば入力してください
 - d. この項目は標準フォーマットのtranslations.txtのzh-Hansに適用されます
9. 韓国語名
 - a. 港名の韓国語の表記があれば入力してください
 - b. この項目は標準フォーマットのtranslations.txtのkoに適用されます

7-3.座標の取得方法

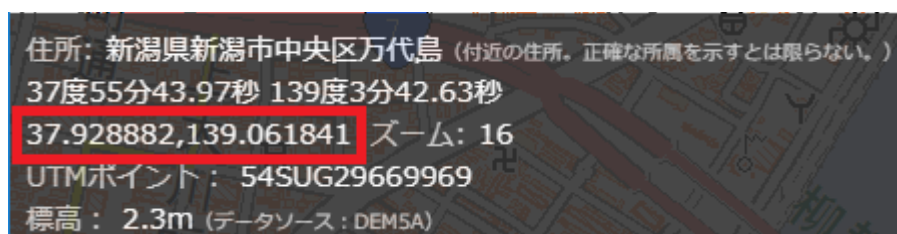
1. 国土地理院の電子国土Webを開きます
<https://maps.gsi.go.jp/>
2. 検索枠に住所を入力することで候補がポップアップします。旗マークの横の住所をクリックしてください。付近の地図へ移動します



- 座標を取りたい場所(港や乗り場)に画面中央の+を合わせ、ブラウザの画面下に出ている情報タブ(図中赤枠)をクリックします



- 3行目の数値(図中赤枠)が緯度(左の数字。37.928882)と経度(右の数字。139.061841)になりますので、その数値をお使いください



7-4.シート「③船の紹介」

	A	B	C	D	E	F	G
1	船の紹介						
2	船体名	総トン数	主機関馬力	航海速力	旅客定員	搭載可能車両数	就航年月日
3							
4							
5							

- 船体名
 - 船舶の名称を入力してください
 - 後述のシート「⑤ダイヤ」で使用されます
- 総トン数
 - 船舶の重量をトン単位で入力してください

3. 主機関馬力
 - a. 馬力を入力してください
4. 航海速力
 - a. 航海速力の平均値をノット単位で入力してください
5. 旅客定員数
 - a. 最大旅客定員数を入力してください
6. 搭載可能車両数
 - a. 車両の最大積載可能数を入力してください
7. 就航年月日
 - a. 船舶の就航年月日を8桁(年4桁、月日4桁)で入力してください
 - b. 20190301

7-5.シート「④運航日」

定義	曜日								期間		運休日
	月	火	水	木	金	土	日	祝	開始	終了	
全日	○	○	○	○	○	○	○	○			
平日	○	○	○	○	○	×	×	×			
土休	×	×	×	×	×	○	○	○			

1. 定義
 - a. 運航日のパターンごとに名称を付けて入力してください。この名称はこのシート内で他の定義と重複しないように設定してください
 - b. 季節によって運航日が変わる、船体によって運航日が変わるなどの場合、季節や船体名を組わせて分かりやすい名称をつけると分かりやすくなります
 - c. 例) 夏季ダイヤ_全日、夏季以外_全日
 - d. 初期値として全日、平日、土休を用意していますので、そちらもご利用ください
 - e. この定義は後述のシート「⑤ダイヤ」で使用されます
 - f. 船体によって運航日異なる場合、船体ごとに運航日の定義を分けて作成することもできますが、航路として運航日が変わらない場合、あえて分けない作成の仕方でもできます
 - g. 例) 分ける場合: フェリーびざん_運航日、フェリーどうご_運航日
 - h. 例) 分けない場合は、③船の紹介でその航路に使用する船体名を”/”で繋いでください(その場合、総トン数など他の情報は入力不要です)
 - i. 設定した名称に対して後述の曜日、期間、運休日の設定をします。これらの項目は標準フォーマットのcalendar.txtとcalendar_dates.txtのservice_idに適用されます
2. 曜日
 - a. その定義で運航する曜日をリストから選択してください。

標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット入力・作成マニュアル

- b. 祝日にも運航する場合は「祝」に「○」を選択してください。ここを「×」とした場合、「月」に「○」を設定しても祝日に該当する月曜日は運休となります
- c. なお、祝日の定義については「DATE.DLL」のプログラムで計算されており、2019年3月時点で判明している祝日のみに対応しています

3. 期間

- a. その定義で運航する期間を開始、終了それぞれに入力してください
- b. 期間は数字8桁(年4桁、月日4桁)で入力します
- c. 例) 20190301

4. 運休日

- a. 前述の「曜日」と「期間」で定義した運航期間について、例外的に運休となる日付がある場合(ドック期間、お盆・年末年始など)に入力してください
- b. 期間同様、数字8桁(年4桁、月日4桁)で入力します
- c. 入力フォーマットではP列で終了となっていますが、それ以降の列も入力が可能です

7-6.シート「⑤ダイヤ」

便名	直江津港		小木港		ダイヤ											
	着	発	着	発	着	発	着	発	着	発	着	発	着	発		
1便		9:30	11:10													
2便		14:10	15:50													
3便	13:30				11:50											
4便	18:10				16:30											

1. 便名

- a. 就航する便の便番号を入力してください。特に便番号を定めていない(案内していない)場合、出発時刻が早い順に1便、2便とつけてください
- b. 例) 1便、1号
- c. この項目は標準フォーマットのtrips.txt:trip_short_nameに後述の「使用船体」と組み合わせ適用されます

2. 着/発

- a. シート「②のりば」で定義した港名が2行目に自動的に反映されるため、この便での発時刻と着時刻を入力してください
- b. 着/発は4行目が必須になっていますが、港2つの間の発時刻と着時刻が入力されていれば問題ありません
- c. 発着時刻を分けていない場合は、発時刻として入力してください
- d. 便の入力は出港が早い順でなくても構いません

標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット入力・作成マニュアル

- e. 午前6時であれば「6:00」、午後1時であれば「13:00」としてください。出航日の24時を超えて運行する場合、24:00に経過時間を加えた時間を入力します
- f. 例) 出航日翌日の午前6時の場合、「30:00」
- g. 港を通過する場合は、通過する港の発着時刻を空欄にしてください
- h. 入力された時刻から往復は自動的に判定されます
- i. 始発の場合は着時刻、終点の場合は発時刻の入力は省略が可能です。経由港の場合は必ず発/着両方の時刻を入力してください
- j. この項目は標準フォーマットのstop_times.txtのdeparture_timeとarrival_timeに適用されます

3. 使用船体

- a. この便で使用される船体を選択してください
- b. もし日程により使用される船体異なる場合、便を分けて後述の「運航日」の設定をしていただくか、船体名を「船体A／船体B」のように記述してください

4. 運航日

- a. シート「④運航日」で定義した運航日をリストから選択してください

5. 注記

- a. 本便について利用者に何らかの注意を促したい文言がある場合、簡潔に入力してください

7-7.シート「⑥旅客運賃」

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	旅客運賃(大人・一般客室)									
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1. 運賃三角表の入力

- a. シート「②のりば」で定義した港名が自動的に三角表の左下角に出力されるため、各セルに運賃を入力してください。運賃にはカンマを含めないでください
- b. 運賃は一般的な利用(二等客室など販売数の多いもの)の金額としてください
- c. 1便で同じ港に2回以上停泊する場合はその運賃も入力してください。ただし同じ港同士の運賃を入力する必要はありません
- d. この項目は標準フォーマットのfare_rules.txtとfare_attributes.txt全般に適用されます

7-8.シート「⑦車両・特殊手荷物」

1	車両・特殊手荷物	
2	区分	片道運賃
3	注記	
4	～3m未満	
5	3m～4m未満	
6	4m～5m未満	
7	5m～6m未満	
8	6m～7m未満	
9	7m～8m未満	
10	8m～9m未満	
11	9m～10m未満	
12	10m～11m未満	
13	11m～12m未満	
14	12m～13m未満	
15	1mごと割増し	
16	自転車	
17	原動機付自転車	
18	自動二輪車(750cc未満)	
19	自動二輪車(750cc以上)	

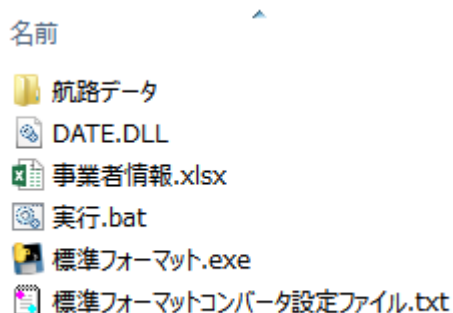
1. 片道運賃

- 区分ごとにそれぞれの片道運賃を入力してください
- またそれぞれの区分について船への積載、持ち込みが不可能な場合は「不可」と入力してください
- この項目は標準フォーマットのpayload.txtに適用されませんが、運賃については反映されません。運賃・あるいは「不可」の入力はそれぞれの積載の可否についての判定に利用されます。

2. 注記

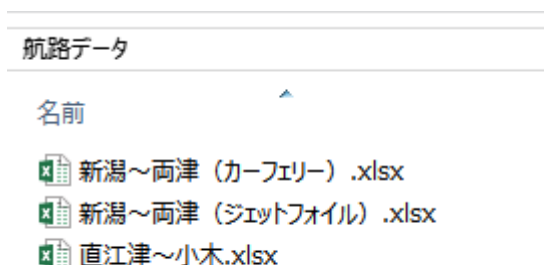
- 車両や特殊手荷物について注記がある場合に入力してください
- 例) 特殊車両の金額は別途の場合、車両料金には運転者の乗船賃も含まれる場合など

8. 標準フォーマットの出力方法



1. 航路データの確認

- 作成したい航路データが航路データフォルダに入っているか確認します
- 「基本航路データ.xlsx」がフォルダに残っている場合、削除するか、別のフォルダに移動してください
- 別のフォルダで作成した航路データがあるなどの場合、作成したい航路データのファイルを航路データフォルダに移します



2. 標準フォーマットコンバータ設定ファイル.txtの編集(任意)

- このファイル自体の**ファイル名や拡張子を変更しないでください**
- 設定可能な項目は以下の3つです
 - 作成する対象航路のエクセルファイルが入ったフォルダ名
 - 対象航路データフォルダ
 - 作成する事業者情報が記述されたエクセルファイル名
 - 事業者情報
 - 標準フォーマットデータの出力先フォルダ名
 - 出力フォルダ
- この項目名は変更しないでください**
- それぞれの項目は「項目名=設定」になっており、この右側の設定の方を編集します。編集の際、「=」を誤って消さないよう注意してください。誤って消した場合、「=」（半角イコール）を再入力してください
- 対象航路データフォルダ名の変更
 - 基本的には「航路データ」のままで問題ありません
 - 改正前後で航路データを分けたいなどの場合、標準フォーマットを作成したいデータが入っているフォルダ名を設定します

- iii. 変更前)対象航路データフォルダ=航路データ
 - iv. 変更後)対象航路データフォルダ=航路データ_改正前
 - f. 出力フォルダ名の変更
 - i. 事業者名の英語表記など半角の英数字からなる事業者名を入力するのがお勧めです。全角文字も入力できますが、その後の経路検索事業者への提供時に不具合を起こす可能性があるためお勧めしません
 - ii. 変更前)出力フォルダ=output
 - iii. 変更後)出力フォルダ=ferry-sunflower
3. 実行.batを実行し標準フォーマットを作成
- a. 実行.batをダブルクリックします
 - b. 黒いウィンドウが表示され、標準フォーマットの作成が開始されます
 - c. 「標準フォーマットデータの作成が成功しました」と表示されれば問題なくデータの作成が完了しています
 - d. 入力しているエクセルファイルの内容に問題がある場合、黒いウィンドウに問題のあるエクセルファイル名、シート名などが表示されます。「標準フォーマットデータの作成が完了しましたが、不正があります」と表示されている場合は表示内容に沿ってマニュアルを見直し、書式の誤りを訂正して再度「実行.bat」をダブルクリックしてください
4. 標準フォーマットデータの確認
- a. 入力フォーマットに正しく値を入れている場合、標準フォーマットの出力先フォルダに11個のファイルが生成されています。
 - i. agency.txt
 - ii. calendar.txt
 - iii. calendar_dates.txt
 - iv. fare_attributes.txt
 - v. fare_rules.txt
 - vi. payload.txt
 - vii. routes.txt
 - viii. stop_times.txt
 - ix. stops.txt
 - x. translations.txt
 - xi. trips.txt
 - b. 入力フォーマットに記述項目がなく、どうしても追加して入力したい項目が場合は上記ファイルを直接編集してください
 - c. その際は標準フォーマットの書式から外れるような編集をしないよう注意が必要です
5. データの提供
- a. データ提供時には出力された標準フォーマットのフォルダをzip形式で圧縮します
 - b. ファイルを圧縮するツールがコンピュータにない場合は、インターネットより入手可能です

6. 作成したデータの活用方法については、「フェリー・旅客船の標準的な情報フォーマット活用ガイドライン」を参照ください

9. データのメンテナンスについて

基本的に標準フォーマットに変換する為の元のデータを更新し、再度コンバートすることで対応が可能です。ただし、ダイヤ、運賃、停泊順などの改正前後両方に対応したデータを作成したい場合、改正前と改正後のデータの両方を作成する必要があります。

1. ダイヤ改正時
 - a. シート「④運航日」にて改正後に使いたい運航日の定義に変更してください
 - b. シート「⑤ダイヤ」にて時刻を修正し、新しい運航日定義に変更してください
 - c. 改正日の前にデータを作成する場合、改正前の便と改正後の便の両方をシート「⑤ダイヤ」に記載し、運転日の定義を設定することで改正前後のデータを保持することが可能です
2. 運賃改定時
 - a. シート「⑥旅客運賃」の運賃を更新してください。
 - b. 標準フォーマットでは日付けによる運賃の変動には対応していません。
 - c. 改正前後の運賃の両方をデータにしたい場合は同一の航路を2つに分けて作成する必要があります。以下の手順で可能です
 - i. 航路A.xlsxを複製して2つのファイルにする
→航路A_改正前.xlsx、航路A_改正後.xlsx
 - ii. 航路A_改正前.xlsxのダイヤの期間終了日を運賃改定前日にする
 - iii. 航路A_改正後.xlsxのダイヤの期間開始日を運賃改定当日にし、運賃を運賃改正後のもとする
3. 港・乗り場の名称変更、停泊港の変更時
 - a. シート「②のりば」の港名、乗り場名を変更、追加してください。
 - b. 変更前後の両方をデータにしたい場合は2つの航路を作成する必要があります。運賃改正と同様の手順で可能です。
 - i. 航路A.xlsxを複製して2つのファイルにする
→航路A_改正前.xlsx、航路A_改正後.xlsx
 - ii. 航路A_改正前.xlsxのダイヤの期間終了日を名称変更前日にする
 - iii. 航路A_改正後.xlsxのダイヤの期間開始日を名称変更当日にする